二〇二一年一月二日

冬銀河はやぶさ号も紛るべし　かかし

ダム涸れて蛇腹めきし地肌見ゆ　うつぎ

行く程に深雪となりぬ山路かな　こすもす

宝殿の羨道奥処まで冬日　はく子

城濠の狭しとせめぐ鴨の陣　わかば

冬麗や大手門へと松並木　はく子

石蕗黄なり庭に袖垣四ツ目垣　はく子

音冴ゆる鎮守の杜の砂利踏めば　愛　正

飛行雲一引き過る寒天田　よう子

探鳥の双眼鏡に冬木の芽　かかし

木喰仏守る末寺の冬菜畑　よう子

寒天干す空に一筋飛行雲　うつぎ

一人居の誰に憚らむ大嘘　うつぎ

神鶏の鳴声長く寒旱　素　秀

冬ぬくし電話受診の医師の声　そうけい

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年一月三日